



趣味と実益

いたはら よしふみ
とさ市長(高知県) 板原啓文
Yoshifumi Itahara

農に安らぎを??

「趣味は?」と聞かれ、しばし考えて、明るく「私の趣味は農作業ですっ!」と答える。

「農作業と言っても大事なところは全て家内がやっておりますので、私は草刈り専門ですが」と恥じらいながら答える。これがよくある会話です。

私が2歳の時、父が病死し、母子家庭で育ったこともあり、「早う(く)終えてテレビが見たい、遊びたい」という思いをしながらも、祖父母や母の農作業を手伝っていたため、身体を動かす農作業に自信はありましたが、やはり手伝いは手



自果樹園除草をする筆者

伝い、11年前、母の他界を最後に直系尊属のすべてを失ってから、正直途方に暮れました。私が44歳の冬のことです。

農作業はさせないという約束で嫁に来た家内でしたが、私が当時、土佐市役所勤務、財政担当課長ということもあり、年間千数百時間の残業常習犯であったことと、「お母さんが命がけて守った畑が朽ちていくのを見ていられない」との悲壮感から仕方なく、母が永年記録していた農家日記を頼りに、見よう見まねで始めてくれました。家内には、口には出しませんがいつも心の中で手を合わせています。

そんな恩義があり、また、ともすれば不摂生になる公務生活にあって、つかの間の心身のストレス解消も兼ねて、夏場は晴れの日、早朝一時間の草刈りを日課としています。さらに、ほとんど雪が降らない南国とあって、ほぼ年中草刈りをしない月はない状況です。

土佐文旦とスモモなど果樹に、2反4畝のお米と野菜を少し栽培している程度ですが、農家は忙しい。身体に良くない消毒作業や重量物運搬、トラクター作業など、できる限り恩義を身体で返してい

かねばと奮闘する毎日です。しかし、酒国高知のこと、休肝日のなかなかたれない過酷な日々の中にあつて、酒に漬かった身体から酒気を抜くにはまたとない趣味ではあります。

を剪定できないか」とのご要望があれば、休日、このボランティア行動隊メンバーと地元の方々がともに出て汗を流します。公園の立木伐採、草刈り等市の業務内容範囲でも、予算が厳しく計上しづらいもので、当該隊の活動で対応可能な範囲のものも取り組んでいます。もちろんこれには市民の方々の参加はありません。

ところで、実は、小さいころからの趣味に資格取得があります。中学2年の時、アマチュア無線の免許を取ったのを皮切りに、通常道路を走っているほとんどすべてに乘れる運転免許や土地家屋調査士、情報処理技術者などさまざまな資格を取得してきました。「資格マニア」と嘲笑する人もいます。

ということですが、いろいろな資格を持っているのですが、このボランティア行動隊で主に活躍しているのが、高所作業車運転技能です。高木を切ることは大きな危険を伴います。安全に作業を行うため取得したわけです。

ボランティア行動隊に歓びを

春山茂雄先生の「脳内革命」という本に、「世の中のためになる生き方をする『人の役に立つ』と、人間は若々しく健康でいられる」という一説がありました。その通りだと思えます。人が感じる「歓び」の中で、他人に喜んでもらうことは至福を感じる瞬間だと思えます。

一般職の時代に「ボランティア行動隊」と言って休日ボランティアで市民の皆さん等と汗を流し活動する組織を提案し、賛同する職員と共に活動してきました。そしてこれを今でも続けています。高齢者施設のエアコンを掃除したり、学校活動に支障を来してきた立木等を剪定・伐採したり、自治組織からの要望で、「周辺住民がそれのために発生する害虫等で苦労しているので、道路脇の背の高い樹木



ボランティア行動隊の小学校危険樹木伐採

まとめ・趣味と実益を实践して

一般職の時代から、休日ほとんど公務に出、家内は他人に聞かれると「お父さんは市役所にやっちゃう! (あげています)」と言わしめてきた嫁不幸者、特別職になつても変わらない生活。これからも時間を見つけて出している自分のできる農作

業に勤しみたいと思っています。

また、休みの日に市民の方々と共に職員が汗をかき姿は、本当にうれしく、地域づくりにも必ずや有意な取り組みだと感じていますし、職員に取り組みしても市民サービスの担い手としての自覚と歓びが感じられる取り組みとっております。

「地域に飛び出す公務員を応援する首長連合」に参画させていただいたのもこうした取り組みがきっかけです。

段々と高所作業車に乗ってのチェーンソーを使う作業がきつくなってきたころ、後継者を模索しながらも、今後も率先して、こうした活動の大切さを後輩に示していきたいと思っています。



高石小学校危険樹木伐採



波介山公園テングス病対策をするボランティア行動隊